

# F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project  
Nov 2015 - Oct 2020

## 持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。農林省森林局(M AF-DOF)を実施機関として協力しています。

## 第5回JCCが開催されました

F-REDDは2020年10月のプロジェクト終了まで1年半となりました。今回の第5回JCC (Joint Coordinating Committee)では、残り期間の活動と目指す成果を確認しました。

それらは主要なものだけでも、森林戦略2030の策定、セーフガード\*1の構築、ルアンプラバン県およびウドムサイ県のREDD+能力強化とGCF\*2との連携およびFCPF\*3炭素基金への公式参加に必要な制度整備、そして第1回MRV\*4の結果次第ではGCF成果支払いの申請など、いずれもラオスの森林セクターにとって高い重要性和関心を伴う支援が控えています。

まずは為すべき支援を着実に果たすことが肝要だと考えますが、一方で、プロジェクト終了後もラオスが持続的に森林管理を進めて行けるように、先を見据えた支援を行っていききたいと思えます。

## 3回目の国家森林インベントリ調査

全国規模の森林調査である国家森林インベントリ(NFI)\*5を2019年1月から開始しました。この調査結果を用いてラオス国全土の森林に蓄積された炭素量を推計します。F-REDDが調査手法等の確立を支援した第2回と同様な方法で実施されています。

本調査の目的として炭素量の把握以外にもう一つ重要なものがあります。それは調査項目の一つである伐根(切り株)から求められる温室効果ガスの排出量推計です。違法伐採が絶えないラオスでは、抜き切り由来の温室効果ガス排出量は相当量あります。それらは衛星画像等で特定することは技術的に困難であり、ラオス国では伐根調査から排出量を推計しています。

2019年末にラオス国は第1回MRV報告書を提出予定ですが、2019年3月末現在において、一定の排出削減量が伐根調査の結果から推計されています。2016年以降、首相令による木材伐採に関する合法性確保の強化や未・低次加工木材の輸出禁止等の効果が出ていると思われます。



\*1 セーフガード：REDD+実施にあたって想定される社会・環境への負の影響を未然に防ぐための制度。

\*2 GCF (Green Climate Fund)：緑の気候基金。UNFCCCのもと開発途上国の気候変動対策(緩和・適応活動)支援を目的として2010年に設立された。季刊 第12号参照。

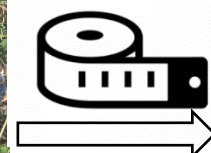
\*3 FCPF (Forest Carbon Partnership Facility)：世界銀行のもとに設置された先進国などの資金拠出によるREDD+推進のための国際的な基金。季刊 第4号参照。

\*4 MRV：温室効果ガス排出削減の成果を測定(Measurement)、報告(Reporting)、検証(Verification)するための仕組み。

\*5 国家森林インベントリ (NFI: National Forest Inventory): NFIとは国内の森林の状況を把握するための調査、またはそれをとりまとめたものを指し、ラオス国における近年のNFIは、サンプル調査により主要森林タイプ毎の炭素量の推計を行っている。この結果はREDD+準備および実施のため、国土全体の森林炭素量及びその変化の推計に用いられる。



推計



## 衛星データを活用した 新たな森林モニタリング手法を導入しました！



森林モニタリング座学研修（上）  
およびフィールド研修（下）

ラオス北部では、森林地から農地への転換が森林減少・劣化の大きな要因となっており、REDD+実施のためには、焼畑および商品作物栽培、あるいはコンセッションエリアが保全すべき森林に拡大しないようにモニタリング体制を整備し、かつ、その手法を開発することが急務となっています。F-REDDでは、2018年から無償の衛星画像を活用した準リアルタイムのモニタリング手法の開発に取り組みました。2019年の乾期（1-4月）に、ルアンプラバン県の保護林のパイロットサイトにおいて、この手法を試行するため、2019年1月に県や郡の森林官を対象とした研修を実施しました。

無償で提供される衛星画像を活用して森林減少地を特定することで、安価で、より効率的、かつ正確な森林減少地の情報の提供が可能になります。また、現場の森林官がタブレット端末上でモニタリング結果を入力して報告するアプリを開発しており、より容易な操作で現地調査の報告をしたり、収集された情報を一元管理することが可能になります。この試行は、2020年の乾季にも行われ、ユーザーからのフィードバックを受けながらモニタリング手法の改良を図る予定ですが、今後、森林減少を抑制するための参加型森林モニタリングのツールとして活用されることが期待されます。

## 成果毎の主な活動

### 成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆森林法改正案作成
- ◆森林戦略改訂のためのレビュー

### 成果2：REDD+実施による

#### 排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆第3回国家森林インベントリ調査
- ◆森林区分図(FTM2019)作成
- ◆NFMS Country Needs Assessment策定

### 成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆第7回REL/MRV技術会合開催
- ◆排出削減プログラム(ERPD)採択後のフォローアップ

### 成果4：ルアンプラバン県および

#### ウドムサイ県のREDD+準備支援

- ◆PAREDDアプローチ普及にかかる研修
- ◆今乾季における森林減少モニタリング試行
- ◆エコツーリズムポテンシャル調査

## コンタクト

### プロジェクトオフィス

Kouvieng Street, Sisaket Village,  
Chanthabouli District,  
Vientiane Capital, Laos  
Tel & Fax: 021(22)2536

### プロジェクトHP

<http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

## 次期四半期のイベント

May.  
年次ワークショップ

Jun.  
第8回REL/MRV TWG



農林省  
Ministry of  
Agriculture and  
Forestry (MAF)



独立行政法人  
国際協力機構